

『カンドニンティク』研究(2)

—dBang khrid nor bu sgron gsal 和訳—

安田章紀

1 序

チベット仏教ニンマ派を代表する学僧ロンチェンラブジャムパ (Klong chen rab byams pa, 1308-1363、以下ロンチェンパ) はあらゆる仏教思想の中、「ニンティク」(sNying thig) と呼ばれる思想を最も重視していた。「ニンティク」とはニンマ派に特徴的な思想として知られる「ゾクチェン」(rDzogs chen) の1種である。本稿で取り上げる『カンドニンティク』(mKha' 'gro snying thig) は、ニンマ派の開祖であるパドマサンバヴァによって埋蔵され、14世紀初頭にペマレデルツェル (Padma las 'brel rtsal, 1291-1319) によって発掘されたと伝えられるテルマ (gter ma、埋蔵宝典) である。『カンドニンティク』はロンチェンパのニンティク思想に絶大な影響を与えているほか、チベットにおいてパドマサンバヴァ信仰が広汎に流布し、パドマサンバヴァがニンマ派の象徴的存在になるきっかけを作ったと考えられている¹。この点、『カンドニンティク』は、無数に存在するニンマ派のテルマの中でも、最も重要なものの1つと言ってよい²。筆者は本誌の前号において『カンドニンティク』に関する論文を発表した³が、

¹ Gyatso[2006: 6]、Germano[1994: 273]を参照。またパドマサンバヴァのパートナーであり、『カンドニンティク』にも度々登場する女性ヨガ行者イエシェツォギヤル (Ye shes mtsho rgyal) への信仰も、『カンドニンティク』がきっかけになって発展し始めた Gyatso[2006: 6]は指摘している。

² 個々のテルマの具体的な内容や思想についてはまだ研究が行き届いていない部分が多い。ここではこれまでに発表された、テルマに関する主な業績を紹介しておく。これらの研究は筆者の知る限りいずれも日本に紹介されていないので、煩をいとわず網羅的に列挙する。

ニャンレルニマオーセル (Nyang ral Nyi ma 'od zer, 1124-1192) のテルマ *bKa' brgyad bde gshegs 'dus pa* については、Samphel[2008]が有益である。リクジンゴデム (Rig 'dzin rgod ldem, 1337-1409) のテルマ *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* については、Kapstein[2000: 178-201]が有益である。カルマリンバ (Karma gling pa, 14c.) のテルマ *Zhi khro dgongs pa rang grol* については Back[1987]、Blezer[1997]、同[2001]、Cuevas[2003]が包括的な研究である。テンニンリンバ (bsTan gnyis gling pa, 1480-1535) のテルマ *Ye shes mthong grol* については、Achard[2004]が非常に詳しい。ジクメリンバ (Jigs med gling pa, 1729-1798) のテルマ *Klong chen snying thig* については、Van Schaik[2003]が包括的な研究である。

また、ニンマ派の強い影響が認められる新ボン (Bon gsar) のテルマに関する研究も発表されている。クンドルタクパ (Kun grol grags pa, 1700-?) のテルマ *rTsa rlung mkha' 'gro gsang mdzod* については Achard[2005]、デチェンリンバ (bDe chen gling pa, 1833-1893) の複数のテルマ群については Achard[2004a]が有益である。

今回も引き続き、同文献の解明を行なう。

2 「灌頂と作法の法類」について

別稿ですでに指摘したように⁴、『カンドニンテイク』はユントゥンドルジェペル⁵ (g-Yung ston rdo rje dpal, 1284-1365) の目録によると、6つのグループから構成されている。すなわち①「身に帯びることによる解脱の部類」、②「灌頂と作法の法類」、③「指南の部類」、④「補助的な法」、⑤「中有の部類」、⑥「断片」の6つである。これら6つのグループはそれぞれ大小様々な複数の文献から構成されている。グループ名のチベット語とグループを構成している文献数を掲げると次のようになる⁶。

グループ名	文献数
①bTags grol gyi skor	23
②dBang dang lag len gyi chos skor	23
③Khrid skor	5
④rGyab chos	9
⑤Bar do'i skor	5
⑥Cha lag	8

このうち、筆者はすでに1番目の「身に帯びることによる解脱の部類」(bTags grol gyi skor)を取り上げて、その構成や内容を紹介し、数点の文献を訳出している⁷。これを受けて今回は2番目の「灌頂と作法の法類」に焦点を当てる。まず、このグループを構成している23書の題名を、前述のユントゥンドルジェペルの目録に見えるものに従って掲げる。これらのうちの大半の書は、題名の一致や内容からの推測によって、現行の『カンドニンテイク』において同定することができる。これら同定が可能な場合には、それぞれの書名の下に現行の『カンドニンテイク』における名称を提示した。一方、同定が出来ない場合には「不明」と記した。

³ 安田[2008]を参照。

⁴ 安田[2008: 62]を参照。

⁵ この人物については安田[2008: 62]で参考文献を指示したが、他に Van der Kuijp[2008: 135-136]も彼と『カンドニンテイク』との関係について有益である。

⁶ *Lo rgyus rgyal ba g-yung gis mdzad pa* 411.4-413.3 を参照。Cf. 安田[2008: 62, n. 12]。

⁷ 安田[2008]を参照。

《dBang dang lag len gyi chos skor》

1. *Rigs lnga phyi sgrub*
= *bDe gshegs rigs lnga'i phyi sgrub*
2. *Rigs lnga nang sgrub*
= *Rigs lnga nang gi sgrub pa*
3. *sPros bcas bum dbang*
= *sMin byed don gsal sgron me shes bya ba spros bcas bum pa'i dbang*
4. *Ḍākki mngon rtogs*
= 不明
5. *dBang gsum pa*
= *dBang khrid nor bu sgron gsal*
6. *gSum pa'i lag len*
= *dBang gong ma gsum gyi sa ma 'grel*
7. *dBang gi rgyab yig*
= *dBang gi rgyab yig*
8. *Khyad par dbang lnga*
= *Thod rgal khyad par dbang lnga*
9. *Phyi sgrub nang sgrub kyi las byang thun mong*
= 不明
10. *gSang sgrub kyi las byang rtsar 'phreng*
= *mKha' 'gro'i las byang tshogs mchod rtsar 'phreng*
11. *dBang sgrub* + 12. *Bum sgrub*
= *dBang sgrub dang bum pa sgrub thabs*
13. *dKyil 'khor gyi nam dag*
= *dKyil 'khor nam dag*
14. *Phyi nang gi tshogs mchod*
= *Rigs lnga'i tshogs mchod*
15. *gTor ma'i cho ga*
= *Rigs lnga'i gtor ma'i cho ga* + *Ḍākki'i gtor ma'i rim pa*
16. *gSang sgrub kyi tshogs mchod*
= *Ḍākki'i tshogs mchod*

17. *dBang gsum tho yig*
 =不明
18. *gSang dbang gi lhan thabs*
 =*mKha' 'gro snying thig gsang dbang gi lhan thabs*
19. *Shes rab ye shes kyi lhan thabs*
 =*Shes rab yum gyi mkha' ngo sprod*
20. *mKha' 'gro snying tig gi man ngag*
 =不明
21. *sPyi gnad* + 22. *Bla rdo*
 =*Ḍākki'i dus gnad gnad 'bebs shi sa spyi gnad bla rdo*
23. *Ḍākki'i nor sgrub*
 =*mKha' 'gro ma'i nor sgrub gter gyi bum pa*

以上のように「灌頂と作法の法類」を構成する全 23 書のうち、4、9、17、20 の 4 書を除く 19 の文献を、現行の『カンドニンテイク』に同定することが出来る⁸。

これら同定可能な 19 の文献は「灌頂と作法の法類」というグループ名から分かるように、灌頂儀礼を中心に、ダーキニーや守護神への供養法や成就法などを主題としており、実践的な色彩が非常に濃く、実践の際のマニュアルとして使用されたと思われる。今回はこれらのうち、灌頂儀礼について詳しく記述している 5. *dBang gsum pa* (= *dBang khrid nor bu sgron gsal*) を取り上げる。

⁸ なお 23 書のうち、1、2、10、12、14、21、22、23 の 8 書は、リクジンゴデム (*Rig 'dzin rgod ldem*, 1337-1409) のテルマである *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* にも含まれている。同テルマにおけるこれら 8 書の題名は『カンドニンテイク』のそれとやや異なっている場合もあるが、ここでは同テルマにおける 8 書の所在だけを示しておく。1=GZKR vol. 1, 331.1-338.6、2=同 338.6-340.5、10=同 413.1-453.6、12=同 342.5-343.5、14=同 407.1-411.3、21+22=同 371.4-375.4、23=同 365.3-371.4。

なお現行の『カンドニンテイク』に見出せない 4. *Ḍākki mngon rtogs* については、同名の書が *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* に含まれている (GZKR vol. 1, 346.3-364.2)。

またこれら以外にも、『カンドニンテイク』に含まれている作品がそのまま *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* に見出される場合が少なくない。以下、『カンドニンテイク』における題名と *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* における所在を示す。*bTags grol snying po'i rgyud*=GZKR vol. 3, 239.1-241.3、*gCig shes kun grol gyi rgyud*=同 241.3-243.6、*Sras gcig sa bon gyi rgyud*=同 243.6-244.4、*Rang byung rig pa'i rgyud*=同 244.4-245.2、*'Bras bu yongs rdzogs chen po'i rgyud*=同 245.3-248.5、*'Bras bu yongs rdzogs btags grol snying po'i rgyud dri med snying po*=同 248.6-254.3、*rTa mgrin yab yum gyi lus dkyil*=GZKR vol. 1, 343.5-346.3、*mKha' 'gro sngags kyi lde mig*=同 364.2-365.4。

安田[2008: 61, n. 10]において指摘したように、*Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* の発掘者であるリクジンゴデムは、『カンドニンテイク』の相承系譜の近辺にいた人物である。したがって彼は『カンドニンテイク』に強い影響を受け、『カンドニンテイク』の一部分をそのまま自らのテルマの中に取り込んだと考えられる。

3 *dBang khrid nor bu sgron gsal* について

本書『灌頂の指南・宝石の灯明の輝き』は、ニンマ派において広く流布した『カンドニンティク』の灌頂儀礼がどのようなものであったかを知ることが出来る、貴重な文献である。チベット仏教の灌頂儀礼についての研究はすでに蓄積されているが、ほとんどがゲルク派の灌頂に関するものであり⁹、ニンマ派についてはこれまで研究がほとんどなされていない。したがって、本書の解説はニンマ派における灌頂の研究の先鞭をつけるものとなる。

インド、チベットにおいて最も広く普及した灌頂の体系は4つの灌頂から成っている。すなわち①瓶灌頂 (*bum dbang*)、②秘密灌頂 (*gsang dbang*)、③般若智慧灌頂 (*shes rab ye shes dbang*)、④第4灌頂あるいは語句灌頂 (*dbang bzhi pa* あるいは *tshig dbang*)、の4つである。『カンドニンティク』にも基本的にはこの4灌頂の体系が取り入れられており¹⁰、本書は秘密灌頂以降の3つの灌頂について叙述している。

次に本書の概要を簡単に見てみる。紙数の都合により今回は、序文とそれに続く秘密灌頂の部分だけを訳出するので、該当部分の概要のみを述べる。

まず序文において、『カンドニンティク』の埋蔵者とされるパドマサンバヴァが本書の説示を宣言する。続いて灌頂の儀式次第が記述される。まず弟子はラマに薫香や装飾品で装った女性を献上し、灌頂の授与を懇願する。ラマは弟子に覆面をし、金剛牝豚 (*rDo rje phag mo, Vajravārahī*) を観想させ、弟子に特殊体験を生起させる。ラマは弟子の覆面をほどき、肉体こそがマンダラなのであると告知する。続いてラマは献上された女性と性交し、精液を弟子の口中に投じる。弟子は体内における楽の増幅を観想する。ラマは弟子が守るべき三昧耶を与える。最後にこの灌頂によって得られる諸々の果が列挙される。以上で秘密灌頂の儀礼が終了する。

本書に見られる以上のような秘密灌頂の儀式次第は、これまでに知られているインド、チベットのそれと比べて、独特な要素が幾つか指摘されるものの、本質的な相違はない。これはニンティクが、前伝期以来のゾクチェンを土台としながらも、後伝期に入って新訳派 (*gSar ma pa*) によって新たにチベットにもたらされたインド後期密

⁹ 北村[1988]、同[1991]、同[1992]、同[1993]、吉水[1986]を参照。立川[1999: 164-168]はサキャ派の灌頂体系の構造を紹介している。チベットにおける灌頂全般の概説は田中[1993: 211-219]を参照。

¹⁰ ただし例外として *dBang gi rim pa khrid du bskur lugs* と *Thod rgal khyad par dbang lnga* の2書だけは4つの灌頂の後、さらに第5の灌頂として「リクパの創造力の灌頂」(*rig pa'i rtsal dbang*) を授けるよう規定しており、灌頂の数に齟齬が認められる。「リクパの創造力の灌頂」の具体的内容についてはすでに安田[2008: 64-66]で紹介してある。

なお、すでに『カンドニンティク』からの影響を指摘した *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* においては、「リクパの創造力の灌頂」を含む5つからなる灌頂体系が一貫して主張されている。*Zab mo dbang lnga'i dbye ba, sPros bcas bum pa'i dbang* 106.4-107.2 を参照。儀礼の詳細については *Rig pa rtsal gyi dbang zab mo* を参照。

菩提心を持つ者の真正な利益 (byang chub sems can yang dag don) として、最高に清浄で真正な (nam dag mchog ni yang dag pa'i) 卓越した無垢の甘露によって無上最高の灌頂を授与したように、同様に〔私たち〕良家の息子たちに〔授与することによって〕輪廻の苦痛全てを除去して下さい。

無垢な大樂の甘露は無明という過失の垢を滅ぼす。無上菩提である大樂そのものをこの機会に私に得させて下さい。

と述べてラマに〔明妃を〕捧げる。

このように〔弟子が〕誓願を立てた後、ラマは〔ダーキニーの〕現觀 (mngon par rtogs pa) を觀想し、〔自らのラマに〕誓願を立て、〔自らのラマ、守護神、ダーキニーに〕供養と讃嘆を行なう²²。それから弟子たちに対して絹か布によって顔を縛る。〔弟子は〕手に華を持って、回ることと敬礼することを3度行ない、ラマ夫妻2人に〔華を〕捧げる。それからラマは弟子に智慧〔薩埵〕を降下させるべきである。すなわち、ラマの前で弟子は起立して〔両〕足の踝をすり寄せ、恭しく心臓の処で合掌する。それからラマは〔以下のように〕三昧を授ける。

おお、良家の息子、汝は聞くがよい。

自分自身を仏〔部族の〕ダーキニーである金剛牝豚²³ (rDo rje phag mo,

²² 括弧内の補足は以下の記述にもとづく。

dBang gong ma gsum gyi sa ma 'grel 200.5-6: mngon rtogs (mchan: dākki'i) bsgom pa dang ཨོ (mchan: bla ma la) gsol ba gdab pa dang ཨོ mchod pa (mchan: bla ma yi dam dākki la) bya ba'o ཨོ.

²³ 安田[2008: 65, n. 21]において指摘したように、『カンドニンティック』には種々多様なダーキニーが登場するが、その中、金剛牝豚は最重要視されるダーキニーである。金剛牝豚の具体的な姿は『カンドニンティック』所収文献において次のように描写されている。

Dākki'i rkyang sgrub 323.4-324.1: rDo rje phag mor bsgom ste ཨོ sku mdog dmar mo zhal gcig phyag gnyis ma ཨོ khro zhal dmar mo spyan gsum ma ཨོ spyi gtsug na phag zhal mthing kha ngur ba g-yas su lta ba ཨོ ral pa kham nag thur la 'phyang ba ཨོ phyag g-yas gri gug bsnams pa ཨོ g-yon pa thod pa khrag gis bkang ba thogs pa ཨོ kha twām ga mchan khung g-yon du bcug pa ཨོ rus pa'i rgyan drug dang me long dang dril bu'i sgra 'khrol ba ཨོ zhabs g-yon brkyang pa'i brla la ཨོ g-yas bskum pa'i mthe bong gtad pa ཨོ me ri 'bar ba'i klong na ro'i gdan la phyed skyil du bzhugs par bsam mo ཨོ.

ほかに *mKha' 'gro'i las byang tshogs mchod ntsar phreng* 246.6-247、*rTa mgrin yab yum gyi lus dkyil* 321.2-5、*Dākki'i lus dkyil chen mo* 362.2-5 にも良く似た描写が見える。

なお、金剛牝豚の発生や展開については以下の研究が有益である。English[2002]、Hermann-Pfandt[1992: 120-122]、Achar[2005: 5-7]。

また、『カンドニンティック』との密接な関係をすでに指摘した *Kun tu bzang po dgongs pa zang thal* においても金剛牝豚は非常に重要な位置を占めており、"rDo rje phag mo'i zab rgya" と総称される以下の8つの文献が含まれている。詳しい内容の紹介は別稿に譲る。

① *Phag mo'i thun bzhi'i mal 'byor gyi khrid*、② *mKha' 'gro'i las rim gsang ba'i man ngag*、③ *mKha' 'gro ma'i dus kyi rtsis rgya drug gi man ngag*、④ *rDo rje phag mo'i dgyes pa phrin las kyi rgyud*、⑤ *rNal 'byor sgrub pa'i las*

弟子の華が命中した尊格の名前は「これこれである」と阿闍梨自ら説示する²⁸。

それからラマの前に絹の幔幕を張った中で、〔ラマは印〕母を〔金剛〕牝豚そのものとして生起させて界と処を加持し、pam 字から〔印〕母の虚空〔すなわち女陰〕が8葉蓮華として〔生じた〕思い浮かべ、善逝の居住場所 (bde gshegs bzhugs gnas) という本質〔を持つもの〕として生起させる²⁹。hūm 字からは父〔であるラマ〕の秘〔所、すなわち男根〕を五鈷杵として生起させる。それはまた仏陀の本質〔を持つもの〕として生起される。方便と般若〔を象徴する〕父母尊 (yab yum) 〔すなわちラマと印母〕は等入〔つまり性行為〕を行なう。それから界と処の尊格 (khams dang skye mched lha) を性交によって煽り立てて喜ばせてから、精液のエッセンスである滴 (khams kyi dwangs ma'i thig le) を〔印〕母の女陰に落とし、鏡を用いて取り上げてから、3つの甘いもの〔砂糖、糖蜜、蜂蜜〕およびハーブ (mngar gsum rtsa ldan) と配合する。〔ラマは〕自ら三昧を備えつつ〔それを〕弟子の舌の上に置いて、以下の金剛句によって灌頂を授ける。

おお、おお、良家の息子よ。

三世のすべての勝者が卓越した菩提の息子に灌頂を授けた通り、その通りに秘密の菩提心によって今、汝に灌頂を授けよう。

sgo ཅུ་ skra dang ba spu thams cad me ri'i phreng ba'o ཅུ་

同様の記述は『カンドニンテイク』に非常に多い。gSang dbang lus dkyil ngo sprod 190.6-191.3、mKha' 'gro'i las byang tshogs mchod rtsar phreng 228.1-229.1、dBang gi rgyab yig 306.3-5、Dākki'i lus dkyil chen mo 362.5-366.6 を参照。またロンチェンパの著作にも見えている。Zab don rgya mtsho'i sprin 261.1-4、bsKyed rim yid bzhin nor bu 36.2-37.6 を参照。

なおニンテイクの身体観に関する詳細な研究としては Germano[2007]、Achard[2008]、Scheidegger[2007]が既に発表されているが、本書に見られるような身体論は取り上げられていない。²⁸ これは明らかに投華得仏を意味している。すでに見たように、弟子は「絹か布によって顔を縛」られて目が見えないまま「ラマ夫妻2人に〔華を〕捧げ」ている。この過程で弟子の捧げた華はラマの身体のいずれかの部分に触れたはずである。直前のラマの言葉に従えば、ラマの身体もマンダラと見做されるので、華が触れた身体の部分に対応する尊格の名前が告げられると思われる。これについてはロンチェンパの以下のような記述が参考になる。

「弟子はラマの〔身体の〕5箇所いずれかに華を投げ、ラマによって告知されることにより、身、口、意、徳、業の悉地のいずれが最初に実現するかを知る必要がある。」

Zab don rgya mtsho'i sprin 261.4-5: slob mas bla ma'i gnas lnga gang rung du me tog dor la bla mas ngo sprad pas ni / sku gsung thugs yon tan phrin las kyi dngos grub gang thog mar 'grub shes pa'i dgos pa yod do //

²⁹ 仏陀の居住場所としての女陰という考え方はインド文献に遡るものである。野口[1999: 70-71]を参照。『カンドニンテイク』においては他にも女陰について、一切諸仏が生まれてくる場所、あらゆる存在の根源、大楽の智慧を生み出すもの、などという様々な教義的意味づけがなされている。

Shes rab yum gyi mkha' ngo sprod 192.1-5: **Klong gsal** le'u brgyad pa las ཅུ་ dus gsum sangs rgyas thams cad kyang ཅུ་ bha ga dbyings las rang byung ste ཅུ་ chos mams kun gyi 'byung gnas yin ཅུ་ ces pa dang ཅུ་ yang de nyid las ཅུ་ bha ga gsang sngags kun gyi gnas ཅུ་ bde chen ye shes 'byung ba yin ཅུ་ 'di nyid ma brten thabs gzhan med ཅུ་ thabs kyi rgyud kysis grol ba yin ཅུ་ bde chen 'di brten bde ba thob ཅུ་ yang dag sangs rgyas 'di las byung ཅུ་ zhes pas ཅུ་

オーム、グル、ダーキニー。

ハ、リ、ニ、サ。ラ、チャ、フリーヒ、ヤ³⁰。

ボーディチッタアムリタパンチャ、フォーム。

という風に金剛語 (rdo rje'i gsung) を3度唱える。

その後で〔弟子は〕中央〔脈管〕をはっきりと思い浮かべ、〔ラマの精液の滴が〕中央〔脈管を通過して〕秘〔所〕の内部へと下っていくことによって楽が増幅すると観想する。〔ラマは以下のように語る。〕

そ〔の増幅する楽〕こそは、標的にされることと同定されることを離れている (ltos dang ngos bzung bral)。楽と空が不可分な (bde dang stong pa dbyer med) それを、幸せ者である汝は修習するがよい。

その後〔ラマは〕三昧耶を与える。

おお、良家の息子よ、汝の大いなる秘密三昧耶は〔以下のようなものである。〕

智慧を成就させる物資 (ye shes bsgrub rdzas)、すなわち5甘露や、樟脳と梅檀を配合した人の血 (dmar chen) や、金剛水〔すなわち精液〕をすべて〔の飲食物〕に混ぜ合わせるべきである。〔そうすれば〕三世のあらゆる勝者と一致し等しい。これと5つの感覚的対象 (yon tan lnga) に常に繰り返し親しむべきである。

これが無上の三昧耶である。破損せずに、幸せ者である汝は守るがよい。

この金剛三昧耶が与えられるべきである³¹。

以上によって語の障碍が浄化し、語そのものが能力を備えたものになる。親しむべきものとして5肉と5甘露、究竟次第を修習することが許可される。幸福は第9地〔の菩薩〕たちと等しい。〔息災、増益、敬愛、降伏という4つの〕事業については諸々の敬愛の事業 (dbang gi las rnams) が達成される。果は受用身を手に入れる³²。

幸せ者を成熟させる秘密灌頂が幸福な者と出会いますように。サマヤ。封印、封印、

³⁰ これら8字について、*Dākki'i lus dkyil chen mo*362.5-366.4によれば、ハ、リ、ニ、サの前半4字は順に金剛、宝、蓮華、業の4部族のダーキニーの種子であり、後半のラ、チャ、フリーヒ、ヤの4字は順に、ダーキニーのパートナーである4部族のダーカ (dāka) の種子である。

³¹ 秘密灌頂の際に与えられる三昧耶として桜井[1996: 182]はインド文献における例を挙げ、「五肉・五甘露を食すべきこと、生類を殺生すべきことなど社会的倫理に反する内容である」と述べている。

³² 秘密灌頂の結果として「幸福が第9地と等しいこと」、「敬愛の事業が達成されること」の2点を挙げる例はこれまで知られておらず、独特である。立川[1989: 165, 167]、ツルティム[1994: 345-346]、桜井[1996: 179]を参照。

封印。

5 *dBang khrid nor bu sgron gsal* チベット語テキスト

以下に示すのは *dBang khrid nor bu sgron gsal* のうち、今回、和訳を提示した序文と秘密灌頂の儀礼次第に関する部分のチベット語テキストである。テキストの所在は *sNying thig ya bzhi*, 13 vols., Delhi: Sherab Gyaltzen Lama, 1975, vol. 10, 173.2-178.3 である。

dBang khrid nor bu sgron gsal bzhugs pa lags so ང

gSang dbang bzhugs so ང

rigs kyi dākki lnga la phyag 'tshal lo ང

rigs [173.3] ldan skyes bu dag la ni ང *mKha' 'gro snying tig ti ka yi* ང dbang bskur lam du 'jug pa

ni ང **Klong gsal nyi ma'i rgyud** dag las ང

skal ldan smin byed dbang bskur [173.4] ba ང

spros bcas dang ni spros med dang ང

shin tu yongs su spros med kyi (=kyis) ང

skal ba ldan pa smin par bya ང

zhes pas bum dbang bskur thabs logs na yod ང 'dir ni mchog can 'jug pa'i phyir ང gsang dbang

man chad bskur ba'i thabs ང O rgyan Padma bdag gis bstan ང las can cig dang 'phrad par shog ང

sa ma ya ང rgya rgya rgya ང

[173.6] dkyil 'khor stegs bu mthar rdzogs nas མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ cho ga'i rim pa ma nor bar མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bum pa'i dbang
nyid tshar rjes su མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ dkyil 'khor de yi lho phyogs su མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ dus ni srod [174.1] kyi dus dag tu མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bdud
rtsi mam pa lnga bshams la མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ ngag sgrib dag dang nus ldan phyir མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ gsang ba'i dbang ni bskur
byas ste མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bla ma mtshan nyid ldan pa la མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ slob ma mtshan [174.2] nyid ldan pa yis མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ phyag
dang gser gyi maṅdal dbul མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ gsang ba'i dbang gi phyag rgya mo མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ mtshan dang ldan pa'i rig ma
la མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ khru byas spos bltams rgyan gyis [174.3] gdags མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bla ma dag la dbul ba ni མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

e ma ho མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

khyed ni bde ba che མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bde chen Padma he ru ka མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

bde gshegs nams kyi bde chen yab མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bde ba'i dbang phyug bde rtsol (=stsol) [174.4]

mdzad མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

byang chub sems can yang dag don མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ nam dag mchog ni yang dag pa'i མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

dri med bdud rtsi dam pa yis མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bla med mchog gi dbang bskur ltar མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

de bzhin [174.5] rigs kyi bu dag la མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ 'khor ba'i sdug bsngal kun bsal mdzod མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

dri med bde chen bdud rtsi yis མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ ma rig nyes pa'i dri ma 'joms མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

bla med byang chub bde chen [174.6] nyid མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ dus 'dir bdag gis thob mdzod cig མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

ces brjod bla ma dag la dbul མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་

de ltar gsol ba btab rjes la མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ bla mas mngon par rtogs pa bsgom མཚོ་ལོ་ལོ་ལོ་ལོ་ gsol [175.1] ba btab cing

mchod bstod bya མཚོ་ལོ་ལོ་ de nas slob ma dag la ni མཚོ་ལོ་ལོ་ dar ram ras kyis gdong pa bcings མཚོ་ལོ་ལོ་ lag tu me tog
thogs nas ni མཚོ་ལོ་ལོ་ bskor ba dang ni [175.2] phyag gsum bya མཚོ་ལོ་ལོ་ bla ma yab yum gnyis la dbul མཚོ་ལོ་ལོ་ de
nas bla mas slob ma la མཚོ་ལོ་ལོ་ ye shes dag ni dbab bya te མཚོ་ལོ་ལོ་ bla ma'i mdun du slob ma ni མཚོ་ལོ་ལོ་ langs te
rkang pa'i [175.3] long bu gshibs མཚོ་ལོ་ལོ་ gus pas thal mo snying khar sbyar མཚོ་ལོ་ལོ་ de nas bla mas ting
'dzin brlab མཚོ་ལོ་ལོ་

kye ma rigs kyi bu khyod nyon cig མཚོ་ལོ་ལོ་

rang nyid sangs rgyas mkha' 'gro ma མཚོ་ལོ་ལོ་ [175.4] rDo rje phag mo gsal bar bsgom མཚོ་ལོ་ལོ་

de ltar gsal ba'i lte ba ru མཚོ་ལོ་ལོ་ chos 'byung dmar po sum brtsegs bsgom མཚོ་ལོ་ལོ་

de yi lte bar Phag mo ni མཚོ་ལོ་ལོ་ shin tu chung la gsal bar [175.5] bsgom མཚོ་ལོ་ལོ་

de ltar dmigs pa drag tu gtad མཚོ་ལོ་ལོ་ gsol gdab byin dbab rol mo dkrol མཚོ་ལོ་ལོ་ 'phar 'khrab bde gsal nyams
myong skye མཚོ་ལོ་ལོ་ bde stong dbyer med ngang de la མཚོ་ལོ་ལོ་ [175.6] ma yengs pa ru sgom du gzhus མཚོ་ལོ་ལོ་
de nas gdong g-yogs bkrol byas la མཚོ་ལོ་ལོ་ bum dbang dus su bstan pa ni མཚོ་ལོ་ལོ་ rdul tshon dag gi dal yin
te མཚོ་ལོ་ལོ་ de ni dpe yi mtshon [176.1] bya ste མཚོ་ལོ་ལོ་ rang lus rgyal ba'i dkyil 'khor yin མཚོ་ལོ་ལོ་ ye nas rang lus
dkyil 'khor du མཚོ་ལོ་ལོ་ gnas pa ngo yang sprad par bya མཚོ་ལོ་ལོ་ 'khor lo lnga ru rigs lnga yi མཚོ་ལོ་ལོ་ sangs rgyas
[176.2] yab yum lnga gnas pa མཚོ་ལོ་ལོ་ phung po kham dang skye mched kun མཚོ་ལོ་ལོ་ lha yi dkyil 'khor ngo
yang sprad མཚོ་ལོ་ལོ་

slob ma me tog phog pa yi མཚོ་ལོ་ལོ་ lha yi ming ni 'di yin zhes མཚོ་ལོ་ལོ་ [176.3] slob dpon nyid kyis bstan par

bya མཚོ

de nas bla ma'i mdun dag tu མཚོ dar gyi yol ba bres pa'i nang མཚོ yum ni phag mo dngos su
bskyed མཚོ khams dang skye mched byin [176.4] gyis brlab མཚོ yi ge paṃ las yum gyi mkha' མཚོ
padma 'dab ma brgyad du bsam མཚོ bde gshegs bzhugs gnas ngo bor bskyed མཚོ yi ge hūṃ las yab
kyi gsang མཚོ [176.5] rdo rje rtse lnga dag tu bskyed མཚོ de yang buddha'i ngo bor bskyed མཚོ thabs
shes yab yum snyoms 'jug bya མཚོ de nas khams dang skye mched lha མཚོ sbyor bas bskul te mnyes
[176.6] byas nas མཚོ khams kyi dwangs ma'i thig le ni མཚོ yum gyi bha gar phab byas te མཚོ me long
dag gis blangs nas su མཚོ mngar gsum rtsa ldan sbyar ba ni མཚོ rang nyid ting [177.1] 'dzin ldan pas
su མཚོ slob ma'i lce thog bzhag byas nas མཚོ rdo rje'i tshig 'dis dbang bskur bya མཚོ

kye ma kye ma rigs kyi bu མཚོ

dus gsum rgyal [177.2] ba kun gyis ni མཚོ

byang chub sras po dam pa la མཚོ

ji ltar dbang bskur byas pa ltar མཚོ

de bzhin gsang ba'i byang sems kyis མཚོ

da lta khyod la dbang bskur ro མཚོ

om [177.3] guru ḍākkini ha ri ni sa ra tsa hrīḥ ya bhodhitsitta amritapanytṣa hūṃ མཚོ

zhes rdo rje'i gsung de lan gsum brjod do མཚོ

de rting dbu ma gsal yang gdab མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་ [177.4] nang na mar མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་
rgyas par bsgom མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

de nyid ltos dang ngos bzung bral མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

bde dang stong pa dbyer med de མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

skal ldan khyod kyis sgoms shig bya མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

de rjes dam [177.5] tshig 'bog pa ni མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

kye ma rigs kyi bu khyod kyi མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

gsang ba'i dam tshig chen po ni མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

ye shes bsgrub rdzas bdud rtsi lnga མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

dmar chen ga bur tsanda na sbyar མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

rdo [177.6] rje'i chu ni kun tu bsre མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

dus gsum rgya ba kun mthun mtshungs མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

'di dang 'dod pa'i yon tan lnga མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

rgyun du yang dang yang du brten མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

'di ni dam tshig bla na med མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

[178.1] ma nyams skal ldan khyod kyis srungs མཚན་མོན་པུ་མ་གསལ་བའི་

Theg mchog mdzod: Theg pa'i mchog rin po che'i mdzod by Klong chen rab 'byams pa, in Ehrhard[2000].

Thod rgal khyad par dbang lnga, in KhGNyTh, part 1, 284.4-287.6.

bDe gshegs rigs lnga'i sgrub thabs padma stong ldan by Klong chen rab 'byams pa, in KhGYT, part 3, 287.1-299.6.

bDe gshegs rigs lnga'i phyi sgrub, in KhGNyTh, part 1, 106.2-110.3.

rDo rje chu 'thung, in KhGNyTh, part 2, 129.4-133.4.

rDo rje phag mo'i dgyes pa phrin las kyi rgyud by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 549.1-577.2.

Dākki'i dril sgrub gsang ba snying gi dum bu, in KhGNyTh, part 1, 342.6-361.2.

Dākki'i rkyang sgrub, in KhGNyTh, part 2, 322.6-331.2.

Dākki'i lam 'bras kyi skor, in KhGNyTh, part 2, 94.4-105.2.

Dākki'i lus dkyil chen mo, in KhGNyTh, part 1, 361.2-377.3.

rNal 'byor sgrub pa'i las rim gyi 'grel pa by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 579.1-597.5.

Pra khrid chos thun khrid kyi zhag grangs, in KhGNyTh, part 1, 290.2-293.6.

sPros bcas bum pa'i dbang by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 105.1-156.5.

Phag mo'i thun bzhi'i mal 'byor gyi khrid by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 483.1-488.5.

Phag mo'i zab rgya'i khrid yig by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 623.1-645.3.

Phag mo'i gsang ba'i zab rgya by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 599.1-622.2.

BMYT: *Bla ma yang tig* by Klong chen rab 'byams pa, in NyThYZh, vols. 1-2.

dBang khrid nor bu sgron gsal, in KhGNyTh, part 1, 173.2-189.2.

dBang gong ma gsum gyi sa ma 'grel, in KhGNyTh, part 1, 199.1-208.4.

dBang gi rgyab yig, in KhGNyTh, part 1, 193.2-198.6.

dBang gi rgyab yig lag len, in KhGNyTh, part 1, 305.3-311.2.

dBang gi tho yig, in KhGNyTh, part 1, 311.2-312.4.

dBang gi rim pa khrid du bskur lugs, in KhGNyTh, part 1, 276.1-5.

dBang sgrub dang bum pa sgrub thabs, in KhGNyTh, part 1, 261.4-264.2.

dBang bzhi'i go rim tho yig, in KhGNyTh, part 1, 274.5-275.6.

'Bras bu yongs rdzogs chen po'i rgyud, in KhGNyTh, part 1, 21.5-25.4.

'Bras bu yongs rdzogs btags grol snying po'i rgyud dri med snying po, in KhGNyTh, part 1, 267.1-273.2.

sMin byed don gsal sgron me, in KhGNyTh, part 1, 112.1-173.1.

Zab don rgya mtsho'i sprin by Klong chen rab 'byams pa, in KhGYT, part 2, 1.1-488.5.

Zab mo dbang lnga'i dbye ba by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 1, 99.1-103.2.

Rang 'byung rig pa'i rgyud, in KhGNyTh, part 1, 20.6-21.5.
Rig pa rtsal gyi dbang zab mo by Rig 'dzin rgod ldem, in GZKR, vol. 2, 3.1-31.5.
Rigs lnga'i bcud len bdud rtsi'i thigs pa by Klong chen rab 'byams pa, in KhGYT, part 3, 299.6-320.3.
Rigs lnga'i gtor ma'i lag len, in KhGNyTh, part 1, 217.6-221.1.
Rigs lnga nang gi sgrub pa, in KhGNyTh, part 1, 110.4-112.1.
Rigs lnga'i tshogs mchod, in KhGNyTh, part 1, 221.1-225.3.
Lo rgyus rgyal ba g-yung gis mdzad pa by g-Yung ston rdo rje dpal, in KhGNyTh, part 2, 405.4-422.6.
Shes rab yum gyi mkha' ngo sprod, in KhGNyTh, part 1, 191.5-193.2.
gSang dbang lus dkyil ngo sprod, in KhGNyTh, part 1, 190.1-191.5.
Sras gcig sa bon gyi rgyud, in KhGNyTh, part 1, 20.2-20.6.

2 次文献

金子英一

1980 「ニンマ派における「心髄」の相承系譜」『大正大学研究紀要』65, pp. 280-314.

1981 『古タントラ全集解題目録』, 東京: 国書刊行会.

北村太道

1988 「チベット密教の灌頂儀式—ゲルク派におけるヤマーンタカの灌頂—」『成田山仏教研究所紀要』11, pp. 179-200.

1991 「チベット密教における灌頂儀式」『密教学研究』23, pp. 1-20.

1992 「チベット密教の灌頂儀式—ゲルク派における Guhyasamāja の灌頂—」『仏教文化史論集』II, pp. 129-162.

1993 「チベットの灌頂儀式—Cakra-saṃvara の灌頂—」『インド学 密教学研究 下一宮坂有勝博士古稀記念論文集—』, 京都: 法蔵館, pp. 1049-1091.

桜井宗信

1996 『インド密教儀礼研究』, 京都: 法蔵館.

静春樹

2004a 「kṛṣṇa作Yogaratnamālāに見る<行>の体系」『高野山大学大学院紀要』8, pp. 1-9.

2006 「インド後期密教修法論の円環構造—灌頂と聚輪についての一考察—」『高野山大学大学院紀要』9, pp. 1-17.

立川武蔵

1989 「サキャ派」『岩波講座 東洋思想 11 チベット仏教』, 東京: 岩波書店, pp. 153-170.

田中公明

1993 『チベット密教』, 東京: 春秋社.

ツルティムケサン

1994 『インド密教思想史』, 京都: 西藏仏教文化協会.

野口圭也

1999 「後期密教の思想と実践—父タントラ・母タントラ」『シリーズ密教 1 インド密教』(立川武蔵・頼富本宏編), 東京: 春秋社, pp. 57-80.

安田章紀

2007 「チベットにおける五智思想の展開—ロンチェンパの五智思想—」『仏教史学研究』50-1, pp. 1-24.

2008 「カンドニンティク研究(1)—'Bras bu yongs rdzogs btags grol snying po'i rgyud dri med snying po 和訳—」, *Acta Tibetica et Buddhica* 1, Minobu: Faculty of Buddhism, Minobusan University, pp. 59-81.

吉水千鶴子

1986 「ツォンカパ『秘密道次第大論』における灌頂論」『チベットの仏教と社会』, 東京: 春秋社, pp. 215-234.

Achard, Jean-Luc

2004 "bsTan gnyis gling pa et la révélation du *Yang tig ye shes mthong grol*", *Revue d'Etudes Tibétaine* 3, pp. 58-97.

2004a *Bon po Hidden Treasures: A Catalogue of gTer ston bDe chen gling pa's Collected Revelations*, Brill's Tibetan Studies Library, vol. 6, Leiden : Brill.

2005 "Kun grol grags pa and the Revelation of the *Secret Treasury of the Sky Dancers on Channels and Winds*—an Inquiry into the Development of the New Bon Tradition in 18th Century Tibet", *Tibet Journal* 30-3, pp. 3-32.

2008 "Le corps d'arc-en-ciel ('ja' lus) de Shardza Rinpoche illustrant la perfection de la voie rDzogs chen", *Revue d'Etudes Tibétaines* 15, *Tibetan Studies in Honour of Samten Karmay*, part II, pp. 503-532.

Back, Dieter Michael

1987 *Rig pa ngo sprod gcer mthong rang grol: Die Erkenntnislehre des Bar do thos-grol*, *Freiburger Beiträge zur Indologie* Band 18, Wisbaden: Otto Harrassowitz.

Cuevas, Bryan

2003 *The Hidden History of the Tibetan Book of the Dead*, Oxford: Oxford University Press.

Blezer, Henk

1997 *Kar glin zi khro: A Tantric Buddhist Concept*, Leiden: Research School CNWS, School of Asian, African and Amerindian Studies.

2001 "Karma Gling pa: Treasure Finder (gTer ston), Creative Editor (gTer ston)?—A Preliminary Comparison of the *Man ngag snying gi dgongs pa rgyal ba'i bka' zhes bya*

ba'i rgyud and two *Bar do thos grol chen mo*-texts: The *Chos nyid bar do'i gsal 'debs thos grol chen mo* and the *Srid pa bar do'i ngo sprod gsal 'debs thos grol chen mo*", *East and West* 52, no. 1-4, pp. 311-345.

Ehrhard, Franz-Karl

1990 *Flügelschläge des Garuḍa: Literar- und ideengeschichtliche Bemerkungen zu einer Liedersammlung des rDzogs chen*, *Tibetan and Indo-Tibetan Studies* 3, Stuttgart: Franz Steiner Verlag.

2000 *The Oldest Block Prints of Klong-chen Rab-'byams-pa's Theg mchog mdzod: Facsimile Edition of Early Tibetan Block Prints with an Introduction*, Facsimile Edition Series 1, Lumbini: International Research Institute.

English, Elizabeth

2002 *Vajrayogini: Her Visualization, Rituals, and Forms*, Somerville: Wisdom Publications.

Germano, David

1994 "Architecture and Absence in the Secret Tantric History of the Great Perfection (*rdzogs chen*)", *Journal of the International Association of Buddhist Studies* 17-2, pp. 203-335.

2005 "The Funerary Transformation of the Great Perfection (*Rdzogs chen*)", *Journal of the International Association of Tibetan Studies* 1, pp. 1-54.

2007 "The Shifting Terrain of the Tantric Bodies of Buddhas and Buddhists from an Atiyoga Perspective", *The Pandita and the Siddha: Tibetan Studies in Honour of E. Gene Smith*, ed. by Ramon N. Prats, Dharamsala: Amnye Machen Institute, pp. 50-84.

Gyatso, Janet

2006 "A Partial Genealogy of the Lifestory of Ye shes mtsho rgyal", *Journal of the International Association of Tibetan Studies* 2, pp. 1-27.

Herrmann-Pfand, Adelheid

1992 *Ḍākīṅīs: zur Stellung und Symbolik des Weiblichen im Tantrischen Buddhismus*, *Indica et Tibetica* 20, Bonn: Indica et Tibetica Verlag.

Kapstein, Matthew T.

2000 *The Tibetan Assimilation of Buddhism: Conversion, Contestation, and Memory*, New York: Oxford University Press.

Pema Kunsang, Erik

2004 *The Lotus-Born: The Life Story of Padmasambhava Recorded by Yeshe Tsogyal*, Hong Kong: Rangjung Yeshe Publications.

Rossi, Donatella

2008 "mKha' 'gro dbang mo'i rnam thar, The Biography of the gTer ston ma bDe chen Chos kyi dbang mo (1868-1927)", *Revue d'Etudes Tibétaines* 15, *Tibetan Studies in Honour*

of Samten Karmay, part II, pp. 371-378.

Samphel, Tenzin

2008 "Les bKa' brgyad—Sources Canoniques et Tradition de Nyang ral Nyi ma 'od zer", *Revue d'Etudes Tibétaines* 15, *Tibetan Studies in Honour of Samten Karmay*, part II, pp. 251-274.

Scheidegger, Daniel

2007 "Different Sets of Light-Channels in the Instruction Series of Rdzogs chen", *Revue d'Etudes Tibétaines* 12, pp. 24-38.

Van der Kuijp, Leonard

2008 "On the Authorship and Date of the Ecclesiastic Chronicle *Chos 'byung rin po che'i gter mdzod bstan pa gsal bar byed pa'i nyi 'od*", *Tibetstudien: Festschrift für Dieter Schuh zum 65. Geburtstag*, hrsg. von Petra Maurer und Peter Schwieger, Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, pp. 127-148.

Van Schaik, Sam

2003 *Approaching the Great Perfection: Simultaneous and Gradual Approaches to Dzogchen Practice in Jigme Lingpa's Longchen Nyingtig*, Sommerville: Wisdom Publications.

京都大学大学院文学研究科仏教学専修
博士後期課程3年

Graduate Student

Graduate School of Letters,

Kyoto University

Kyoto, Japan